益城町
橋梁個別施設計画

令和８年１０月

益城町

目　次

１　道路施設の現状と課題
（１）益城町の道路概要
（２）益城町の橋梁概要

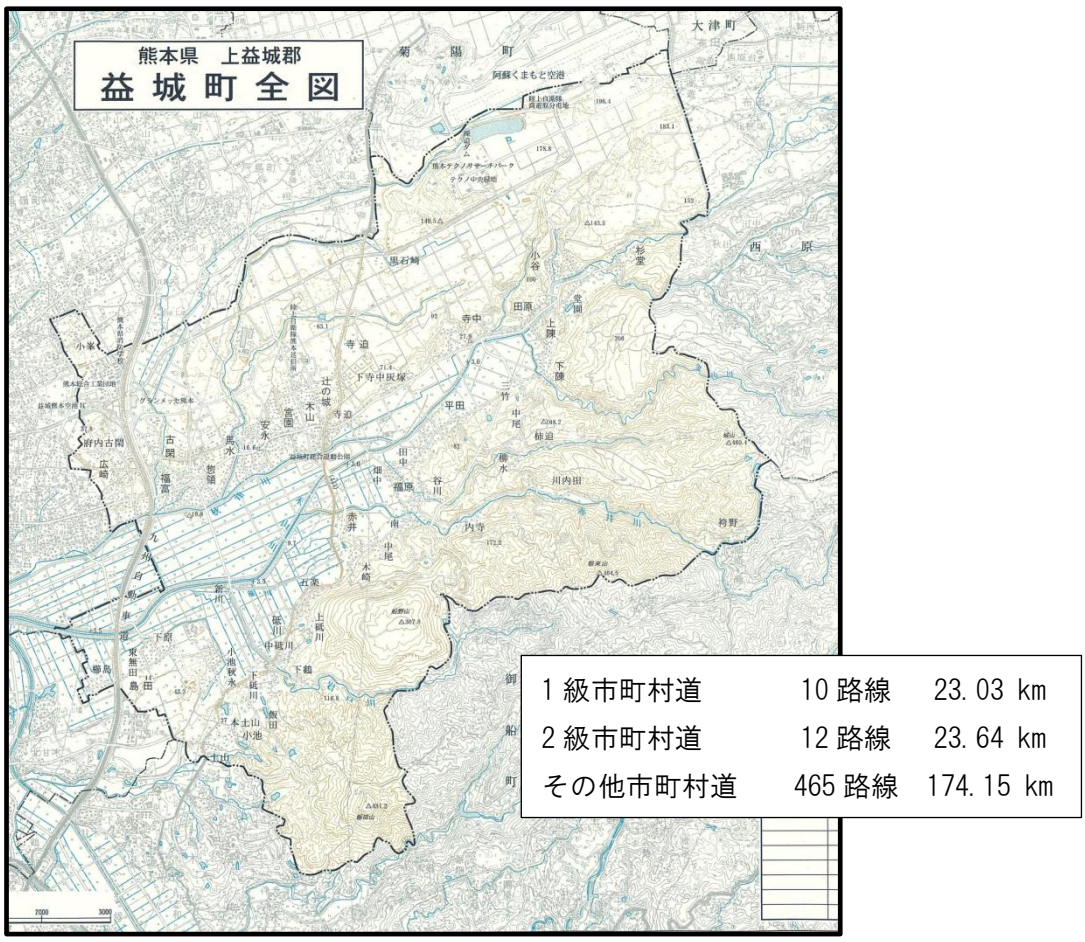
２　道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方
（１）道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方

３　今後の点検・修繕計画
（１）点検計画期間
（２）対策の優先順位の考え方
（３）新技術の検討
（４）集約化・撤去の検討
（５）農道橋等との連携（群マネジメント）による効率化
（６）対象施設、個別施設の状態（健全度）、実施時期、対策内容

1　道路施設の現状と課題

（１）益城町の道路概要

熊本県益城町では、１級市町村道塔ノ平中原線ほか 9 路線 23.03ｋｍ、2 級市町村道赤井木山線ほか 11 路線 23.64ｋｍ、その他市町村道府内・安永線ほか 464 路線 174.15ｋｍ、合計 220.82ｋｍを管理しています。



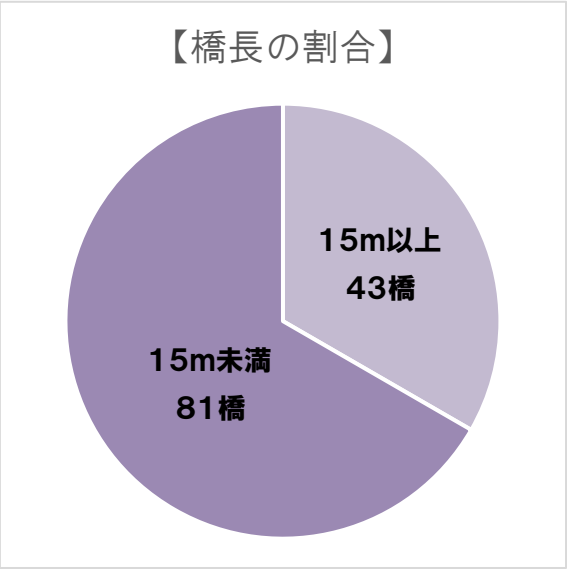
（２）管内の橋梁概要

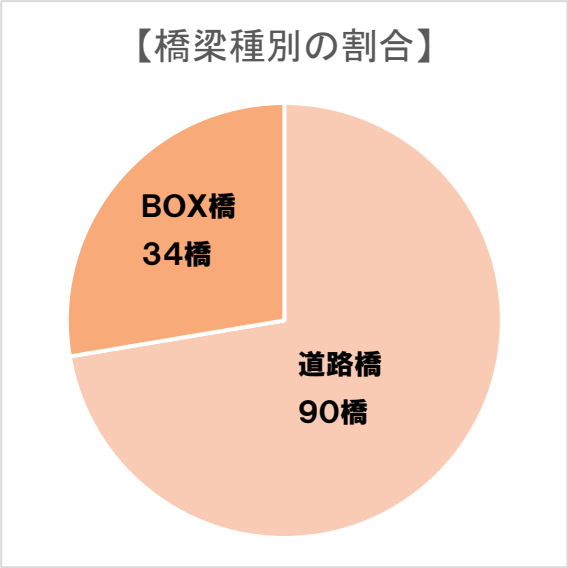
益城町の橋梁概要（農林道橋 2 橋含む）

本町が管理する橋梁数は、15m 未満橋梁 81 橋、15m 以上橋梁が 43 橋、合計 124 橋あります。

橋梁数

管理橋梁合計	道路橋		うち BOX 橋
橋梁数	15m 以上橋梁	15m 未満橋梁	橋梁数
124	43	81	34





道路橋とは？
道路、鉄道、水路等の輸送路において、輸送の障害となる河川、渓谷、湖沼、海峡あるいは他の道路、鉄道、水路等の上方にこれらを横断するために建設される構造物。

ＢＯＸ橋とは？
道路の下を横断する道路や水路等の空間を得るために、盛土あるいは地盤内に設けられる剛性ボックスカルバート。橋長２ｍ以上かつ土被り１ｍ未満のカルバートを指す。

２　道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方

（１）　道路施設のメンテナンスサイクルの基本的な考え方

インフラは、利用状況や設置された自然環境等に応じ、劣化や損傷の進行は施設ごとに異なり、その状態は刻々と変化します。現状では、これらの変化を正確に捉え、インフラの寿命を評価することは技術的に困難であるという共通認識に立ち、インフラを構成する各施設の特性を考慮した上で、定期的な点検・診断により施設の状態を正確に把握することが重要です。

このため、橋梁の点検については、定期点検要領に基づき、５年に１度、近接目視による点検を実施し、結果については、４段階で区分することとしています。

区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、 予防保全の観点から措置を講することが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、 早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が 著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

3　今後の点検・修繕計画

（１）　点検計画期間

５年に１回の定期点検サイクルを踏まえ、点検間隔が明らかとなるよう計画期間は１０年とします。

なお、点検結果等を踏まえ、毎年度、計画を更新します。

（２）　対策の優先順位の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な対策を講じます。橋梁の対策は、第三者に対する安全性に著しく影響を及ぼし、緊急的に対応が必要な損傷がある橋梁を優先的に実施します。

特に、速やかに補修を行う必要がある区分「健全度Ⅳ」および早期に措置すべき区分「健全度Ⅲ」と判定した橋梁については、損傷個所数や損傷程度を考慮し、優先的に対策を実施します。

（３）　新技術の検討

今後５年間で、管理する橋梁のうち４０橋で新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して１百万円のコスト縮減を目指します。

（４）　集約化・撤去の検討

今後５年間で、迂回路が存在し、交通量の少ない１橋の集約化･撤去を目指します。

集約化・撤去前と比較して１百万円のコスト削減を目指します。

（５）　農道橋等との連携（群マネジメント）による効率化

限られた財源や専門職員が限られる中、持続可能な維持管理を推進するため、道路部局である建設課と農政部局である産業振興課が緊密に連携し、管理する一般道路橋と農道橋等の点検業務等の同時発注を予定しています。

これにより、発注事務や調査に係るコストの効率化を図るとともに、地域全体におけるインフラの群マネジメント（群マネ）を推進し、さらなる効率的な維持管理体制の構築を目指します。

（６） 対象施設、個別施設の状態（健全度）、実施時期、対策内容

益城町管内における対象施設、個別施設の状態（健全度）、実施時期、対策内容、については別紙の表のとおりである。

（別紙）